

夏休み中の研修報告

夏休み中はたくさんの研修会が行われており、職員が研修に行きやすい期間でもありました。また、前期中に行われた園内研修を録画したものを、その時に出席できなかった職員が後で視聴するなど、それぞれの職員が目的をもって学びを深めることができました。その中のほんの一部分ですが、研修の報告をまとめました。

★神奈川県私立幼稚園教育研究全県大会

記念講演 8月8日 『脳と育児』 講師;池谷裕二

○学んだこと・新たに知ったこと

- ・脳は思い込みをするもの、少数が反映されやすい平均値ではなく中央値というものがあるということ。
- ・ヒトは行動と感情に整合性を求める生き物で、行動に納得いかない時には心を変えてしまうということ。
- ・「やる気」は行動の原因ではなく結果、やり始めない限りやる気は出ないということ。
- ・知能を支える3つの要件は「論理」「言語」「熱意」であるということ。
- ・脳と育児はどのように関連しているのか、二つのつながりは分かっていませんでした。まず、同じ子どもを見ても人間以外の動物と人間を比べると大きな違いがあるということを知りました。それは、人間の赤ちゃんはあらかじめ備わっている知識が少ないため、周りが0から示したり教えたりする必要があることと、それに伴って人間の赤ちゃんは多様な環境に柔軟しやすいということでした。
- ・人間の赤ちゃんは自然と学ぼうとし、固定概念がないため、周囲の環境に馴染みやすい。よい方向へ馴染むためには周囲の子どもへの伝え方が大切だということを知り、叱ってばかりでは子どもの自然と育とうとしている芽を摘むことになってしまうのだと感じました。
- ・成果ではなく、努力を誉める方がよいということ。

○保育へどう活かしていくか

- ・普段あまり意識することのない脳という観点からの話を聞き、保育や育児について改めて考えることができました。育児の中で言ってしまうがちな「〇〇するなら□□できないよ」という二重否定は、日常的に意識して肯定的な「〇〇できたら□□をしようね」に変換して伝えていこうと思います。
- ・子どもがやったことやできたことをほめるときには、成果だけではなくそこに行きつくまでの努力を誉めることが大事と言っていたので、保育の中でも作る過程を意識した声掛けをしたいと思いました。
- ・子ども同士の交友が人間性を育むので、その交流ができる環境、子どもの持っている熱意を削がないよう、まっすぐに育つ環境を考え整えていきたい。

・楽しいエピソードを思い出すとストレスが減り前向きになれば、感情を生み出すのは「身体」表情や姿勢が感情を形作るということなので、たのしい言葉や笑顔をより意識していきたい。

・大人が笑顔で先に動き、ありがたいの感謝の言葉をかけていく。否定の回避を改めて意識し、子ども達とかかわっていかうと思う。

★横浜市幼稚園協会開催

令和5年度横浜市幼稚園大会 教育研究大会 全体会

8月26日『NICU 命の授業～子どもたちとご家族の生きづらさの緩和を目指して～』 講師；豊島勝昭

○学んだこと・新たに知ったこと

・障害とは何か、家族の思いなど改めて考えさせられました。

・病気、障害などもって生まれてくる赤ちゃんに必ずしも親が愛情を持つことができないことがあるということ。

・極低出生体重児の約3分の1に発達障害があるということ。

・障害とは街の中での生きづらさであること。子どもたちやご家族が生きづらさを感じずに生活できるように、少しでも病気を治したい、という言葉がありました。この言葉は自分と同じ思いだな、と感じました。私たちが日々保育している子どもたちをなおすことはできないけれど生きづらさを少なくしてあげたいと改めて思いました。

・NICU 卒業後に虐待の確立が高い、子どもに愛情がわからない親御さんもいる。しかし虐待は特別なことではなく、誰でも起こりうることでもある。NICU 卒業は家庭での生活のスタートである。生活、子育てが母親一人だと過負荷になり虐待が起こりやすいので、父親含め協力して生活できるようサポートすることが大切。

・障害とは何か、家族の思いなどを改めて考えさせられました。赤ちゃんの 33 人に一人は NICU に入院していることは初めて知りました。命を延ばすだけが全てではなく、日々の奇跡に気づけるよう1日1日を大切に生きる家族がいることを知ることができ、普段過ごしている何気ない日々の幸せを感じました。また、障害とは街の中での生きづらさであり、その生きづらさは後遺症の重症度とは必ずしも一致しないということを学びました。

・病院＝治療する場所という考えがあったが、『集中治療をするよりも家族と一緒に過ごす時間を提案することもある』ということを知り、共にその子、その家族にとってを考えてくれる場所だということを感じました。その共感の仕方や考え方は、保育でも必要なことだと思いました。その子と家族にとってを共に考えるということの大切さを感じました。

・生まれてくる子どもを救うだけではなく、そのご家族その先の生活を見据えて支えていくということまで行っていることは初めて知った。

○保育へどう活かしていくか

- ・障害をもつ子供や家族に心を寄せ、それぞれの個性・特性を考え共に生きていくことは、今後の保育で意識していきたいと思います。養育レジリエンスの話聞いて、私達もその子の特性や対応を理解したり、社会的支援を理解したりすることで、よりその家族支援が高まるのだと思いました。そのためには、それぞれの障害の理解に努め、NICU といった機関について知ることも大切になるのではないかと思います。また、肯定的、前向きに育児できるためにも、それぞれの家族に心を寄せ、様々な機関や人と連携して支えていきたいと思いました。
- ・人生を生きていくうえで目標に向かって上ばかり見ることなく、日々の奇跡にも目を向けられる様にとありました。保育する上でも行事やねらいなどにとられるのではなく、目の前の子どもと過ごす時間を大切にして、子どもの一言一言にも心を寄せる気持ちを持っていたいと思っています。そして、発達障害の知識はあるかもしれませんが、障害がある子と過ごす家族の生活や気持ちは分かった気がしているだけだと改めて気づかされました。幼稚園の中で子どもたちや家族が生きづらさを感じずに生活できるように、サポートをこれからも少しずつやっていきたいと思いました。
- ・医療従事者を保育者、登場するお子さんやご家族を園のお子さんやご家族に自然と照らし合わせながら話を聞きました。目の前の(もしくは生まれてくる)お子さんのことを救うことだけをしているわけではなく、家庭のこと、その先の生活を実は特に支えていくのも大切なことだと感じました。ご家庭での生活を知ること(必要な情報を得たりすること)、家庭の養育力をサポートすることがその子にとって幸せ、生きづらさを減らすことができるのかなと思いました。その子にとって何が幸せか、どうしていくことが幸せなのかをご家族と共有していくこと、保育者間でもよく話し合うことをしていきたいです。

★NEAL リーダー(自然体験活動指導者)養成講座 講師;増田直弘

○学んだこと・新たに知ったこと

- ・自然体験活動の特質 野外&室内
- ・自然体験活動の完全管理
- ・自然体験活動の記述 野外&室内

○保育へどう活かしていくか

- ・自然を通して人と人の距離が近くなったことが印象的でした。そして、自然物が多種多様であることから、人に対しても多様な考え方を受け入れられる気がしました。
- ・人と比べずありのままの自分を受け入れると自分にも他人にも優しくなれます。自然活動をすることによってありのままを受け入れられた子どもが自己肯定感が高くなり、生きる力が育めるそうなので港南台幼稚園の園庭の自然物を使ってどのようにこの研修で学んだことを活かせるよう実践してみたいと思います。

★よこはま港南療育センター オンライン講座

子どもの発達障害 講師;半澤直美

ことばの発達とコミュニケーション 講師;青山美里

不器用なお子さんを理解するために 講師;石渡智佳

こころの発達・保護者支援 講師;難波紀子・吉岡志寿

○学んだこと・新たに知ったこと

- ・発達障害について基本的な知識や対応について知っているつもりだったが、人に伝えたり内容をまとめたりするときに必要な「言語化」する力はまだ不十分だったので、そのヒントをたくさん得ることができた。
- ・施設の紹介動画を観ることができて、通う子どもの姿をイメージすることができた。
- ・言葉の発達→吃音、構音障害の対応の仕方
- ・保護者支援のポイント。か;価値観を知る せ;急かさない き;共有する 「か・せ・き」をふまえて向き合っていくこと。

○保育へどう活かしていくか

- ・人は自分の求めているものを与えてくれない人とは信頼関係を築きにくい。「信頼関係」とは相手から今までとは異なる視点を示されたときにそれを受け入れる基盤となるので焦らずじっくり関係を築くことを心掛けたい。
- ・発達障害児だけではなく、1人1人の子どもたちへの対応を学んだので、「感覚あそびを取り入れ、どの感覚を欲しているのか分析して見極めていきたい。
- ・保護者支援のサポートとして、相手の「正のエネルギー」があることが大事。子育てや生涯の認識についても、相手にあった「学びのスタイル・ペース」があるので決して押し切らずまずは話をしてくれる保護者の話を傾聴していきたい。

★講演会「あんな絵本!こんな絵本!どんな絵本?!」 講師;こどものとも 河野さん

(保護者向けの講演会を録画したものを視聴)

○学んだこと・新たに知ったこと

- ・絵本とはことばを豊かにしたり想像力を育んだり知的好奇心を揺さぶったりと多くの良い影響を与えてくれるが、乳幼児期の子どもたちに一番大切なのは「愛情をたっぷり受ける期間」となることである。
- ・よい絵本とは、長く読み継がれ原作に忠実な作品である。大人の受けを狙ったものや、しつけや早期教育を目的とした本もたくさんあるが、子どもが初めて出会う芸術作品だという意識をもって絵本を選ぶべきということ。

○保育へどう活かしていくか

- ・基本的信頼関係を築いたり子ども自身の自己肯定感を高める「愛情をたっぷり受ける時間」としての絵本タイムをこれまで以上に大切にしていきたいと思った。
- ・園ではクラスにある本の中から選んだり子どもが持ってきた絵本を読むことが多いので、クラスにある絵本を見直しより良い絵本が手に取れるように整えることが大事だと思った。同時に、純粹に楽しんだり「ドキドキ」や「おもしろかった」などいろいろな気持ちを共有する一つのツールとして絵本を活用していきたい。